

# みき通信



日本共産党 町議会議員  
くぼたみき 活動報告

第37号 2014年1月25日

発行 **がんばれくぼたみきの会**

連絡先 875-7126 (阿部)

## 変えよう、“わかちあい”の政治へ！

この4月からの消費税増税、福祉や教育予算の引き下げと、生活の安定とは程遠い安倍政権の政策に、新年早々頭の痛いことだらけです。

私たち国民から増税で奪った約8兆円もの財源をつぎ込む対象は、軍事費と公共事業費ばかり。診療報酬が実質マイナスに転換し、医療崩壊も危惧されています。また、70～74歳の医療費窓口負担2割へ引き上げ、年金の3年連続2.5%カットなど、増税の上に社会保障は削減と、国民には2重の負担を強いながら、大企業には減税して「戦争する国」づくりへ暴走する安倍政権。

昨年未から、秘密保護法の強行採決、猪瀬都知事の辞任、沖縄の辺野古への米軍基地建設容認と民意に耳を貸さず、力とお金に物を言わせて意のままにしようという、ゆがんだ政治の姿が次々と現れています。

でも、この悪い流れに異議を唱える人々の声が広がり、秘密保護法の廃止、撤廃、凍結を求める意見書は、40以上の地方議会で可決され、葉山町でも日本共産党の提案で、賛成多数で可決されました。

日本の侵略戦争を肯定、賛美する靖国神社へ参拝し、中国、韓国、アメリカをはじめ世界各国から批判をあびている安倍首相ですが、年頭の記者会見でも「戦争する国」づくりのための憲法解釈の変更や憲法改定へ執念を示しており、油断はできません。戦争は秘密から始まり、甘い言葉で忍び寄ってきます。

平和で安心してくらするように、秘密保護法は廃止して、貧困と格差を広げる、経済優先ではない、豊かさを分け合う“わかちあい”の社会を目指して力をあわせていきましょう。

## 名護市長に稲峰さん 再選

町議会議員 **くぼた みき**

普天間基地の辺野古移設反対を主張した稲峰さんが再選されました。前は1600票余りの差でしたが、今回は4000票と更に広がりました。

安倍政権は多額の復興基金をばらまき、昨年末に沖縄県知事が辺野古埋め立てを承認。住民をも納得させようとしたが、住民はお金ではなく「移設反対」を訴えた市長を選びました。再選が決まると復興基金は「ゼロベース」といいます。これで復興基金が「住民のため」ではなく「基地のため」のお金であったことがはっきりしました。自民党幹事長は「新基地の問題は政府が決める」と言い、官房長官は「選挙の結果はどうであろうとも新基地建設は左右されない」と発言していますが、住民の声を全く聞こうとしない、アメリカ言いなりの安倍政権の姿勢を許さないという住民の強い意思表示が、稲峰市長を再選したのです。

2月9日は都知事選投票日。首都東京の動きは日本を動かします。選挙権がないからと見ているだけにはいきません。日本共産党が推薦する宇都宮候補は脱原発、福祉、雇用、防災などしっかりした政策を発表しています。小泉元首相は「原発を除いて、ほかの問題は誰がなっても大した違いはない」と言い、脱原発だけが争点のような報道もありますがとんでもありません。福祉、暮らしなどの政策も重要です。

葉山町では、来月は26年度予算を決める議会です。国指導による消防無線をデジタル化とあわせて、消防指令業務の共同運営について大きな動きが考えられます。これは国の方針による消防救急無線デジタル化への変更に共ない、消防指令業務を横須賀、三浦と共同運営するというものです。町は「指令業務のみ広域化」と言っています。以前、消防業務広域化を検討した時には、メリットがないと不参加を決めています。当時、広域化になれば町に2台ある救急車は人口比計算となり1台減らされる可能性もあると話されていました。「指令業務のみ」といっても、広域化を狙う国の方向性もあり、消防業務全体が広域化の可能性は払拭されていません。住民の生命財産を守る立場、財政面など十分な検討が必要です。